

作成日：平成 25 年 11 月 30 日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名：動物用金鳥スミチオン乳剤 K (販売名：動物用金鳥スミチオン乳剤 K)
用途：家畜・家禽の外部寄生虫の駆除、畜鶏舎内及びその周辺の衛生害虫の駆除

会社名：大日本除虫菊株式会社
住所：大阪市西区土佐堀 1 丁目 4 番 11 号
担当部門：お客様相談室
電話番号：06-6441-1105
整理番号：1329

2. 危険有害性の要約

分類の名称：急性毒性物質、引火性液体、その他の有害性物質
危険性：引火性である。熱、火花、火炎等で着火することがある。
有害性：眼及び皮膚を刺激する可能性がある。
環境への影響：製品中に水生生物に対して強い毒性を示す成分を含む。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物（フェニトロチオン、乳化剤、キシレン）

成分及び含有量：フェニトロチオン 10 w/w%
化学名：0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)ホスホロチオエート
化学式： $C_9H_{12}NO_5PS$
官報公示整理番号：化審法 (3)-2616, 安衛法 4-(9)-232
CAS No.：122-14-5

成分及び含有量：キシレン 85.0 w/w%
化学名：ジメチルベンゼン（エチルベンゼンを含む）
化学式： C_8H_{10}
官報公示整理番号：化審法 (3)-3
CAS No.：1330-20-7（混合物）

4. 応急措置

吸入した場合：被曝者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布等で覆い、保温して安静に保つ。呼吸が弱かったり、止まっている場合は、衣類を緩め呼吸道を確認した上で人工呼吸を行う。呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。意識がない場合は口から何も与えてはならない。また、吐かせようとしてはならない。応急措置を施した後、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。必要であれば切断する。製品に触れた部分を水又は微温湯で流しながら洗浄する。石鹸を使ってよく落とす。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は直ちに医師の診断を受ける。また、この製品は可燃性なので火気に注意した処置をする。

目に入った場合：清浄な水で最低 15 分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよくいきわたるように洗浄する。

- 飲み込んだ場合： 水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の診断を受ける。被曝者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない。また、吐かせようとしてはならない。
- 応急措置をする者の保護： 救助者が有害物質に触れないように手袋をする等注意する。
- 医師に対する特別注意事項： 医師には本剤が有機リン系殺虫剤であることを告げて診断を受けること。中毒時の治療方法として硫酸アトロピン及び PAM の使用が推奨される。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 二酸化炭素、粉末、乾燥砂(初期火災)、泡(大規模火災)
- 特定の危険有害性： 消火水が河川等に流入しないように気をつける。
燃焼ガスには一酸化炭素及びその他の有毒ガス(NO_x , SO_x 等)が含まれるので消火作業の場合には、煙を吸入しないように注意する。
- 特定の消火方法： 消火作業は可能な限り風上から行う。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。初期消火には二酸化炭素消火剤、粉末消火剤、乾燥砂等を用いる。大規模火災の場合は、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。容器周辺が火災のときは、容器を安全な場所に移動する。移動ができないときは、容器に注水して冷却する。
- 消火を行う者の保護： 消火時には、燃焼又は高温により有毒ガス(NO_x , SO_x 等)が発生することがあるので呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際は保護衣、帽子、防災面、保護眼鏡、マスク、ゴム手袋、ゴム等の前掛け、長靴等適切な保護具を着用して行う。飛沫等が皮膚に付着したり、吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項： 本剤に含まれる活性成分は水生生物に対して悪影響を及ぼすことが予想されるので、土壌汚染を防ぐとともに、下水、廃水及びその他いかなる水圏にも流してはならない。
- 除去方法： 少量の場合にはオガクズ、土砂、バーミキュライトのような吸収材で直ちに吸着させて密閉できる容器に回収する。残りは洗剤と水でよく洗浄する。大量の場合には盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。使用した吸収材、洗浄水は全て密閉できる容器(廃棄物入れ)に回収する。
(処分は「廃棄上の注意」の項に従って行う。)

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い：
- 技術的対策： 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。保護眼鏡、保護衣、保護マスク、保護手袋等の適切な保護具を着用し作業を行う。着用する保護具は常に清潔にする。休憩場所には手洗い、洗眼等の設備を設け、休憩する場合には手や顔をよく洗う。可燃性であるため蒸気の発散をできるだけ抑制し、火気、高温の近くで扱ってはならない。また、発散した蒸気を吸い込まないようにする。高温で分解すると有毒なガスを発生する。容器の栓は、必要なおきのみ開栓し、常時密栓しておく。容器を転倒させる、引きずる又は、容器に衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。
- 注意事項： 屋外での取り扱いはできるだけ風上から作業する。取扱いは換気の良いところで行う。取扱い場所以外の休憩場所等には汚染された保護具を持ち込んではいない。

保管:

技術的対策: 火気、熱源より遠ざける。

保管条件: 直射日光を避け換気の良い乾燥した冷暗所に保管する。

本製品は消防法上の第四類第二石油類に該当するので屋内貯蔵を原則とし、指定数量を守ることを。火気厳禁。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策: 取扱いの際はできるだけ密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設ける。

許容濃度: 1 mg/m³ (TWA) [フェニトロチオン] 日本産業衛生学会(2000年版)

保護具: 呼吸器用の保護具: 防毒マスク

手の保護具: 耐溶剤性手袋

目の保護具: 保護眼鏡、防災面

皮膚及び身体の保護具: 保護衣、帽子、ゴム等の前掛け、長靴等

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態: 形状: 液体

色: 微黄色～微黄褐色澄明

臭い: 特異臭

pH: 4.0～7.0

密度: 0.910(20℃)

溶媒に対する溶解性: 水を混和すると白色のエマルジョンを形成する。

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲:

引火点: 26.5℃(タグ密閉式)

動粘度: 1.2×10⁻⁶m²/s(26℃)

10. 安定性及び反応性

安定性: 室温において安定

反応性: なし

危険有害な分解生成物: 熱分解により CO, SO_x, NO_x等が発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性: 経口(ラット) LD₅₀: ♂ 3.8 ml/kg ♀ 4.8 ml/kg

経口(マウス) LD₅₀: ♂ 7.9 ml/kg ♀ 8.5 ml/kg

経皮(ラット) LD₅₀: ♂ >5 ml/kg ♀ >10 ml/kg

経皮(マウス) LD₅₀: ♂ ♀ >15 ml/kg

主な中毒症状: ラットでの経口投与では振せん、流涎、流涙、眼出血及び失禁の発現を認めた。生存例の症状は5～6日目より消失した。

局所効果: 皮膚(ウサギ) : 中等度の刺激性あり。

眼(ウサギ) : 軽度の刺激性あり。

12. 環境影響情報

[フェニトロチオン]

生態毒性: コイ LC₅₀: 4.3mg/L(48hr)

ミジンコ LC₅₀: 5.5mg/L(24hr)

13. 廃棄上の注意

汚染容器・包装: 空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去した後に処分する。

残った製品(残余廃棄物)の廃棄方法： 有毒ガス(CO,NO_x,SO_x 等)が発生する恐れがあるので、排ガス処理設備を備えた焼却炉で焼却するか、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。

14. 輸送上の注意

国連分類： クラス 3 (引火性液体類)
国連番号： 1993 (その他の高引火点引火性液体(容器等級 3))
国内規制： 第四類第二石油類、危険等級Ⅲ、火気厳禁、キシレン
輸送の特定の安全対策及び条件： 輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れ等のないことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。車両、船舶には、ゴム手袋、保護眼鏡、保護マスク等の保護具を備えるほか、異常時の処置に必要な消火器、工具などを備えておく。

15. 適用法令

薬事法： 動物用医薬品
消防法： 危険物第四類第二石油類
化学物質管理促進法： 第一種指定化学物質 (フェニトロチオン、キシレン、エチルベンゼン)
労働安全衛生法： 通知対象物質 (フェニトロチオン、キシレン、エチルベンゼン)

16. その他の情報

改訂の記録

作成日：平成 25 年 11 月 30 日

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関してはいかなる保証をなすものではありません。定められた用法・用量及び使用上の注意事項に従ってご使用下さい。